

令和5年度 学校関係者評価実施報告書（まとめ用）

学校番号	18	学 校 名	静岡県立西部特別支援学校	記 載 者	飯塚 昌夫
------	----	-------	--------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	自己 評価	関係者 評 価	意見
(1)	ア 事後も含めた緊急時の対応力向上	・避難生活も含めた体系的な防災学習の実施 各学部1回以上	A	A	
		・発災後から学校再開までの動きと緊急時の動きを理解できたと答える職員 100%			
		・必要物品の点検年1回（児童生徒個人防災用品は年2回）			・電源、食事等、細かい所まで考える必要がある。
	イ すべての児童生徒が体調を整え、気持ちよく生活するための取り組みの充実	・円滑な医ケア体制により、医ケア対象児童生徒の授業が充実したと答える関係職員 90%以上	A	A	
		・安全な生活・学習環境の中で授業を充実させることができた と答える職員 90%以上			
	ウ 多様性を認め合い高い人権意識をもった児童生徒と教員	・道徳教育全体計画に基づき、道徳教育の充実を図れた 答える職員 100%	A	A	
		・人権教育年間計画の作成			
		・学校全体の人権意識が高まったと答える職員 100%			
(2)	ア 「主体的・対話的で深い学び」をめざした授業づくり	・効果的にツールを活用し、PDCAサイクルによる授業ができた と答える職員 90%以上	A	A	・PDCAサイクルのC-Aをしっかりと行っている点がよい。

		・教科等横断的な視点に立った年間指導計画の作成と授業実践ができたと答える職員 90%以上			
	イ 教員の専門性向上	・相談が日頃の悩みの解決に役立ったと答える若手教員 90%以上	B	B	・ペアが固定されて窮屈な部分もあったと思うが、若手としては担当が決まっている方がよい場合がある。分からないことが分からない場合もある。
		・若手教員へ日常的に助言することができたと答える中堅教員 90%以上			・中堅教員は、細かい点を若手に伝えていけるとよい。
		・各研修が業務遂行に役立ったと答える職員 90%以上			
	ウ 将来の姿を見据え、個の力を最大限に生かすキャリア教育の実践	・自立活動指導計画の改訂(流れ図の考え方を反映)	A	A	
		・キャリア教育を意識し、個に応じた教育ができたと答える職員 100%			
		・各グループ・係で3事例以上の実践			
	エ ICTの活用	・タブレット端末等の活用を工夫した実践各グループ2回以上	A	A	・ICTをうまく使えば、子供たちの自己表現が増える。ぜひ使ってほしい。
(3)	ア 各機関との円滑な連携と情報発信	・学校からの情報発信に概ね満足していると答える保護者 90%以上	A	A	・COCOOをうまく活用していきたい。アンケート等、便利である
		・校内外の支援体制が整っていると答える職員 90%以上			
	イ 地域の特色や自然環境に目を向けた学習の充実	・各学部の取り組み 100%	A	A	・よい取組をしている。ボランティアや交流校の児童生徒にアンケートを実施すると良い。

様式第 5 号

		・ 互いの理解が深まる交流ができた と答える職員 90%以上			
		・ SDGs を意識した実践年 2 回以上			
	ウ 地域に根付いた学校づくり	・ 地域と連携した取り組み年 2 回以上	A	A	
(4)	ア 風とおしの良い職場づくり	・ 相談しやすい職場であると答える職員 90%以上	B	B	・ 様々な年代の教員のモチベーションを挙げることはとても難しい問題である。組織として理解しながらやれることをやっていくしかない。
	イ 学校運営課題の解決に向けた組織的な取り組み	・ プロジェクトによる課題の解決・進展 100%	B	B	・ 成果目標の難易度が高かったのではないかな。
		・ 共有した情報を学校運営に生かすことができた と答える職員 90%以上			
	ウ 指導の充実に向けた業務の整理・精選	・ 授業準備の時間が 増えた答える教員 90%以上	B	B	・ 何をすれば授業準備に必要な時間を確保できるのか、分析することが必要である。 ・ 仕事のやり方は、様々な考え方がある。指導に関することは、一番大事なことである。忙しさだけが増えないよう、軽重を付けてやることが大切である。 ・ 単純に授業準備に掛かる時間が増えればよいわけではない。業務の洗い出しをして効率化をしていきたい。
	・ 周年行事に向けて	・ 式典、記念誌、記念品等周年行事の 具体の立案、提案等	A	A	